

第 3473 図

とうだいぐさ科



きだちこみかんそう

*Phyllanthus Niruri L.*

本邦の暖地に多い雑草で、南方では亜灌木状をなすが、普通1年生草本、高さ10-30cm許あり、茎は直立して太く横方に細い分枝が多く、紅色を帯びる。葉は小形、膜質、長楕円形、全縁で先端鈍形、短柄があり、小形の托葉を具えるが、小枝の左右に並列互生して一見複葉の状がある。花には雌雄の別があり、細小で、短梗があり、腋出し、雄花は円形の5萼片及び3雄蕊を有し、左右両縁に広く白色の縁取りがあり、雌花は6萼片を有し、萼片は小形、狭倒卵状長楕円形で、子房は卵形、花柱は短かく、3裂し、各裂片は更に2裂して柱頭をなす。蒴果は扁球形3胞をなし、表面は赤褐色平滑である。

第 3474 図

とうだいぐさ科



こぼんのき

*Phyllanthus flexuosus Mueller Arg.*

本州の近畿以西、四国、九州の山地、溪間などに生ずる無毛の落葉小灌木で、小枝を水平に出してその上に葉を互生する。小枝の基部は膨れてその腋隅に芽を有し、長さ8-15cm許に達し、あたかも羽状複葉の如くである。葉は卵形又は楕円形で鈍頭又は鋭頭、全縁、薄質無毛で、下面は帯白色を呈し、短柄を有する。花に雌雄があり、雄花は4萼片あり、暗紅紫色を呈し、雄蕊2-3個を有する。雌花は淡緑色、萼片は3個、平開せず、雌蕊の基を包み、雌蕊は先端3深裂する柱頭を具える。果実は扁球形で径約6mm、先端に柱頭を残存し、成熟すれば漿果様となる。

第 3475 図

とうだいぐさ科



はず (巴豆)

*Croton Tiglium L.*

台湾、南支など東南アジア原産の常緑小喬木で、高さ3mに達する。純熱帯性で暖地以外は生育困難である。種子を峻下剤として薬用に供する。葉は互生し、葉尖は下向き黄緑色で多少赤味を帯び、上面滑沢で、若芽及び葉裏には毛があり、卵形、鋭頭、心脚で、縁辺に低鋸歯があり、長い葉柄の頂に2腺体がある。瘦長な総状花序は枝端に直立、下部に雌花、上部に雄花をつける。花は淡黄白色、短梗があり、径6mm許ある。雄花には卵形の萼片5個があり、外面に毛及び星毛があり、花卉又5個、線状楕円形、内面有毛、花被片より長い雄蕊15-25個、蜜槽5個がある。雌花には萼片5個、外面に星毛があり、裂片は広披針形、花卉はなく、子房は楕円形、星毛があり、柱頭は3岐し、各分枝は更に2岐する。蒴果は、倒卵形、3縦溝によって3胞をなし、長さ2.5cm許。種子は灰褐色、やや偏圧された楕円形で背に鈍稜があり、長さ1.2mm許、頂に灰白色の仮種皮がある。

せねが

*Polygala Senega L.*

北米原産の多年草で、薬用として栽培される。根は太く曲り木質で、頂から高さ20-30cmの茎を叢生する。葉は互生し、下部のもの小さく鱗片状、上方へゆくとき大形となり披針形で両端尖り、縁に微細な毛状歯がある。我国で栽培しているものは葉が広く卵状披針形で巾8-24mm、ヒロハセネガ (var. *latifolia Torr. et Gray*) にあたる。6月、茎頂に長さ3-5cmの穂をなし、蝶形の小花を開く。萼片は5個、左右の2片は他より大きく長さ3mm余、卵形で凹み花卉の様で白く後紅色をおびる。花卉は3個、2側弁は長楕円形白色、竜骨弁は淡緑色で先端に手指状に裂けた附属体がついている。雄蕊は8本で花糸は互に癒合している。蒴果は扁圧された球形で凹頭、2室で各1種子ある。根を祛痰剤とする。

第 3476 図

ひめはぎ科



いとひめはぎ

逸志 (おんじ)

*Polygala tenuifolia Willd.*

北支・北朝鮮原産の多年生草本で、根茎はやや木質となり、先から高さ10-40cmの細い茎を数本だす。葉は密に互生し、線状披針形で特に茎上部の葉は細くなり、長さ1-3cm巾0.5-2mm、ほぼ無毛である。春夏の頃、茎側から総状花序をだし、疎に紅紫色の花をつける。萼片は5枚、内3片は披針形で小さく長さ2mm許、他の2片は大きく花卉状となりへら状長楕円形でとがり長さ約5mmある。花卉は3枚で下側の竜骨弁は他より少し長く先は細かく房状に裂けている。蒴果は倒心形で平たく、長さ4-5mm、先が凹んでいる。根は漢方で祛痰薬として使われる。和名は糸姫萩の意味で、ヒメハギに近く葉が糸状に細いので名付けられた。

第 3477 図

ひめはぎ科



まるきんかん

一名まるきんかん

*Fortunella japonica Swingle*

(= *Citrus japonica Thunb.*)

暖地に植栽される常緑の矮性果樹で、高さ2m許、よく枝を分けて繁茂し、刺針を全く欠除するか、或は甚だ短い刺を有する。葉は長楕円形で先端は円く、基部はやや狭まって円脚をなし、縁辺の上半に低平なる鈍鋸歯があり、葉の上面は濃緑色、下面は淡色、葉脈は不明瞭で、明点を散布し、柄には狭翼がある。夏日、葉腋に2-3の白色小花を開き、佳香を放つ。小梗は短かく、花は小形の萼片5個、花卉5個を有し、中に多雄蕊、1雌蕊を具える。果実は酸味が強く、球形、径2cm許、橙黄色を呈し、子房室は4-5個に過ぎない。ナガキンカンに比して、樹形小、果実は丸く、子房の室は少数。

第 3478 図

まつかぜそう科

